

S-TEAM 教育推進事業 「STEAM」 推進プロジェクト
外部連携支援事業（学校活用型）実施報告書

学校名	北海道弟子屈高等学校
実施日時	令和6年6月27日（木） 13:00～16:15
講師	（ 所 属 ） ロコ・ソラーレ （ 職 ・ 氏 名 ） 選手・鈴木夕湖
実施概要	<p>1 ねらい</p> <p>世界の舞台で活躍する現役のオリンピックから、自身の歩んできた競技や、学業と競技を両立させて大学進学を果たしてきた経歴についての講話をとおして、生徒が自己の在り方や生き方を振り返り、自己探究力を高めるとともに、今後の高校生活に向けての意識の高揚を図る。</p> <p>本校では、1学年の4月に実施する宿泊研修で、常呂でカーリング体験を行っている。講師は旧常呂町出身で、進学後も常呂においてカーリング競技を続け、日本の代表選手として、常呂やオホーツク、北海道の知名度を高めることで、多くの人が生まれ育った地域への「郷土愛」を感じるなど、地域社会へ大きな貢献を果たしている。</p> <p>地域の人材や教育資源を活用しながら、地域の方々と協働して進めている地域探究を実践することで、本校生徒が「郷土愛」を育み、地域貢献につながることを深く理解し、探究活動において一層主体的に地域と関わる意欲と態度を身に付けることをねらいとしている。</p> <p>2 日程</p> <p>打合せ 13：30～14：00（校長室） 講 義 14：00～14：55（体育館） 質 問 14：55～15：00（体育館） G W 15：00～15：15（体育館） 座談会 15：15～16：15（多目的室）</p> <p>3 講義、実習等の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれ育った常呂では、就職の受け皿がないため、北見に出る必要があるなど、常呂では将来が見えないと思っていたが、オリンピックでメダルを取ったことで、夢を叶えるのに場所は関係ないと考えた。 ・個性を活かすことが大切であり、「そだね～」で代表されるように、人の意見を受け入れてから、どう考えるかがチームの方針であった。 ・人の話を聞いて話しやすい雰囲気を作り出し、話し合いやミーティングを重ねるなど、チームとしてコミュニケーションを大切にしている。 ・「TEAM BUILDING」を大切にしており、遠征時やオフの時

には、皆でご飯を食べたり、スポーツ観戦をしたりするなど、一緒に行動している。

- ・試合に負ける度に、分析して、やるべきことを共有し話合うなど、失敗を失敗のままにしないことを大切にしている。



4 成果（生徒・教員の変容及びねらいの達成状況等）

次の生徒のコメントから、郷土に対する意識が変容するとともに、自分を振り返る力が身に付き、弟子屈を前向きに捉える力を身に付けることができたと考えられる。

- ・弟子屈だからできないなんてことはないから、自分の夢に向けて少しでもたくさんチャレンジしたい。この町で頑張ってみようと思った。
- ・自分で挑戦すれば、弟子屈でも何でもできると思った。
- ・夢を叶えるためには、「やる」か「やらない」かの違いで、場所は関係ないという言葉が胸に響いた。
- ・「自分の成功の確率を上げる」、「自分をもっと信じてあげる」という発想は今の自分にはなかったので、とても参考になった。
- ・コミュニケーションも目標も、継続することで形になることを学んだ。
- ・メリハリをつけるために、ミーティングの時から心を入れ替えていることが勉強になった。
- ・自分も競技を続けている身として、特にメンタル面での話を世界レベルの選手から教えてもらうことができて光栄だった。